

【評価実施概要】

事業所番号	2774900555
法人名	有限会社 ケアプラザ
事業所名	ケアプラザ れんげの里
所在地	大阪府富田林市向陽台一丁目4番16号 (電話) 0721-29-6164)
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】 (平成20年2月26日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	800 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		2,000 円	

(4) 利用者の概要 (2月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2			
年齢	平均 79.6 歳	最低	63 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今城クリニック、くまざき歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近鉄河内長野線富田林駅から車で約10分ほど行った高台の静かな住宅街の中にあり、自然環境に恵まれた家庭的なグループホームである。隣接して提携医療機関があり、24時間体制で医療連携が行われ、重度の認知症の利用者も積極的に受け入れている。法人代表や管理者は看護、介護の熟練者であり、全職員参加のケア会議を毎月開催し、利用者の介護計画などの作成やケアの検討を行い、随時見直しも行っている。近隣住民とのつながりを大切にしたり取り組みとして、地元中学生の「福祉体験学習」を受け入れるなど地域住民から理解が得られるような馴染みの関係を築いていく努力を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では主な改善課題として、介護計画書の内容の具体化、ホームだよりの発行、研修体制の整備などが指摘された。主な改善状況には職員の力量に応じた積極的な外部研修の参加の実施と内部研修で報告する機会を設けるなどに取り組んでいる。毎月ではないが「れんげだより」も発行されるようになり、介護計画書の内容も家族の希望や思いを聞き取り個別具体的に努力している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義を職員に説明している。自己評価表は職員から意見を聞き集約している。昨年の評価により指摘された課題について管理者と全職員が話し合い、具体的な改善計画をたて、その実施にむけた取り組みを行っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。地域住民代表、地区会長、利用者家族、地域包括支援センター主任、利用者が参加している。会議では、事業所からの報告等があり、認知症相談窓口を開設した事の説明と、町内会掲示板や商店に認知症相談のチラシ貼付を依頼するなど地域住民の理解と協力を求めるように取り組んでいる。会議での内容は職員のミーティング時に報告し、検討してサービスの向上に活かせるように努力している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理などの報告を行い、利用者の誕生月には「れんげだより」を発行し送付している。月一回介護相談員が来訪し、利用者や面談し意見を聞き取っているが要望や苦情などは少ない。運営推進会議に出席の家族からは徐々に質問などが出されるようになり、その意見や要望等はミーティングで話し合い反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は地域の自治会に加入し盆踊りや運動会にも参加している。年2回のゴミ清掃活動には職員と利用者が共に毎年参加して地域との交流を行っている。中学生の福祉体験学習や地域のボランティアによるお化粧会も受け入れるなど地域との交流を大切にしたり、認知症の啓発に取り組むよう努めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の分かりやすい理念が掲示され、利用者の意思及び人格を尊重したリズムにあわせたゆったりと見守るかたちのケアを提供することが事業の目的及び運営の方針に明示されている。また家族と地域の方の理解を深めつつ適切な認知症高齢者グループホームの提供を目的とすることがうたわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアの居間の壁に掲示されている。毎朝の申し送り時や、ミーティング時に理念の周知を行い日々の取り組みをしている。管理者は新入職員にはサービスの質の向上に向けて実践することを課題に実現の取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、法人代表は役員も務めている。利用者は地域の行事である盆踊りや運動会にも参加している。年2回あるゴミの清掃活動にも毎年参加して地域の住民との交流を行っている。また、中学生の福祉体験学習やボランティアによるお化粧会も受け入れている。管理者は地元の有志による「むつみ会」にも入会し、ハイキングなどにも参加して地域とのつながりを大切に認知症の啓発などの取り組みに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価で指摘された改善課題について管理者と全職員がミーティングで検討し、課題にむけて具体的な改善計画を立て、その解決実施にむけて取り組みを図る努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催している。利用者家族、地域住民代表、地区会長、地域包括センター主任、利用者が参加している。会議では事業所からの報告等があり、認知症相談窓口を開設した事の説明と、町内会の掲示板や商店に認知症相談のチラシ貼付を依頼するなど地域住民の理解と協力を求める取り組みがなされた。会議の内容は職員にミーティング時に報告し、検討してサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市町村担当窓口に出向き事業所の実情等を伝えているが市町村担当とともに課題解決を図る取り組みや情報の共有には至っていない。	○	市町村担当者に事業所の意向や実情を積極的に伝える機会を作り、運営やサービスの課題解決に向けて協議し、共に取り組む事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時にはその都度利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、金銭管理などの報告をしている。利用者の誕生日のある時には「れんげだよ」を発行し、行事の写真なども添付して送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員2名が月1回訪問し、利用者と面談しながら意見を聞き報告書を作成している。意見箱は設置しているが意見や要望はあまり出されていない。運営推進会議に出席された家族からの希望や意見も聞き取り、出された意見や要望はミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐために職員の異動を出来る限り少なくし、同じユニットで勤務できるような取り組みにするなどの配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>改善課題である研修受講には職員の力量に応じた積極的な外部研修の参加実施と共に、研修内容の報告書作成を行い内部研修で報告する機会も設けている。インフルエンザやノロウイルスなどの内部研修も看護師により実施し、全職員が受講している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>富田林市介護保険事業者連絡会（縄なわネット）に参加し、ネットワークづくりに取り組んでいる。他の事業所との意見交換などからサービス内容の充実を図る取り組みをしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員は利用希望者の自宅や入院中の病院を訪問するなど、馴染みの関係作りを行っている。家族からは利用者の食べ物の好き嫌いなどの情報を得ながら相談して納得のいくまで話し合い、安心して利用できるような配慮をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である利用者からは、編み物や裁縫、お習字、子育ての苦労話などを教えていただき、共に過ごし支えあう関係の構築に心掛けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所は「私の生活史ノート」を活用している。このシートを基に利用者の幼少時から現在に至るまでの生活状況や身体機能能力などの把握を行い、職員間で共有化し本人の希望や意向に添えるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを実施し記録している。利用者や家族の希望や意見を取り入れた個別具体的な介護計画書を作成している。家族の集いを毎月（第4日曜日）に行う等して、家族が訪問された時には希望や意向を聞き取り、介護計画書の説明を行い、同意後に署名を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に一度行い、また、利用者の状態に変化がみられたときには見直しを行い、現状に即した介護計画書を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への通院介助、理美容院、芝居見物、温泉、買い物などの個別の要望や希望を聞きいれた外出の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の主治医との連携を密にとり、本人や家族の希望があれば、かかりつけ医による継続的な医療が受けられるように支援している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時に重度化や終末期に向けての方針を家族と話し合い、同意された場合には同意書に署名捺印を得ている。医療連携体制と看取りの指針も作成している。利用者の重度化に伴い、医師、看護師との連携を図りターミナルケアを実施している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報保護マニュアルを作成し、プライバシーの保護を全職員に周知徹底している。職員は利用者に対する言葉かけや対応には配慮する事を心掛け一日に1回以上は「有り難う！」と話しかけることを今年の目標に掲げている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>管理者は利用者の生活のペースを大切に希望に添ったケアの提供がなされるように支援することを目指している。利用者の体調に合わせた入浴希望や外出支援など利用者が落ち着いて暮らせるように職員は柔軟な対応に配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は生協から購入し、ピーマンの種取、じゃがいもの皮むきなど利用者と職員が会話をしながら一緒に準備をし、楽しみながら共に食事をしている。後片付けも一緒に行っている。食器は陶器を使用しており、利用者が季節感を味わいながら楽しい食事が出来るように心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決めているが、利用者の希望や体調に合わせてゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。浴室は個浴槽であり身体機能の低下した利用者には職員と一緒に入り安心して入浴出来るような入浴介助をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味の聞き取りから一人ひとりが能力を発揮できるような支援をしている。習字、手芸、折り紙、プランターの花の手入れ、洗濯物を干したり畳んだりなどの役割が楽しめ、生き生きとした表情で暮らせるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は毎日近隣の公園や小学校、中学校、公民館周辺を約15分間散歩しており、季節折々の花や景色を楽しむことが気分転換となっている。一人ひとりの希望に応じて買い物外出や温泉、観劇などの支援も行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は施錠しておらず、職員はチャイムの音で出入りを確認している。利用者の車椅子の後輪に鈴をつけることにより移動を確認し、見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時対応マニュアルは作成しているが、非常災害時には地域の人々の協力が得られるような取り組みがなされていない。事業所の災害対策に関する理解と連携を図る働きかけが望まれる。	○	2階のフロアーには身体機能の低下した重度の利用者も入居されており、非常災害時の避難対策が求められる。消防署の指導の下に地域住民の協力を得て避難訓練を実施することが早急に必要である。運営推進会議を通じて地域住民との協力体制を築く働きかけが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の生活記録表には食事摂取量を把握し記載しているが、利用者一人ひとりの水分摂取量の記録がなされていない。利用者の一日全体の水分摂取量を把握され、記録されることが望まれる。	○	利用者の水分不足が起こらないように水分摂取量の把握をされ、毎日の生活記録表に記録される事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の壁面には手作りのカレンダーやゆめりえ、行事の写真、利用者の大きな字で書かれた「端午の節句」の立派な書が飾られている。その下には手作りの大きな鯉のぼりが2匹泳いでいる。2階の窓からはすぐ近くのゴルフ場や池、桜並木など眺めが素晴らしく、遠くの山々も一望できる。居間のソファもさりげなく置かれて、過ごしやすい配慮がされている。前回の評価で指摘のあった、居間の陽射しが強過ぎるために、テレビが反射して見えにくいには窓の上にカーテンを設置することで改善している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れたタンスや懐かしい写真、ぬいぐるみ、時計、カレンダーなどの好みの物品が持ち込まれている。利用者や家族の希望で身体機能の低下状態により、畳に直接布団を敷かれているところもある。		

※  は、重点項目。